

2018年2月18～25日にかけて、学校教育高度化・効果検証センター主催のスウェーデン研修に参加しました。ストックホルム大学での3大学合同研究報告会（ストックホルム大学、ユヴァスキュラ大学、東京大学）だけでなく、スウェーデンの高校やユネスコ、OECD本部への見学なども盛り込まれた、非常に充実した研修プログラムでした。

○2月19日（月）

ストックホルム大学にて、両校の大学紹介が行われました。個人的には、ストックホルム大学の男女比が衝撃的で、男性3割、女性7割でした。博士課程や職員となると半々くらいになるのですが、まずジェンダー平等の進展の度合いに打ちのめされました。

午後はストックホルム大学生に引率してもらい、キャンパス内と市街地を見学しました。キャンパス内も非常に綺麗で、勉学に集中するための設備が整っているなど感じました。図書館も非常に綺麗で、東京大学の薄暗い図書館を思うと悲しくなりました。

引率してくれた学生たちが非常にフレンドリーで、とても楽しかったです。

市内ではお土産を買ったり教会に行ったりしてたくさん歩き回りました。歩き疲れた私と後輩たちはおしゃれなカフェに入りました。するとカッコいい店員さんが、「もうすぐ店が閉まっちゃうんだけどいい？」と聞いてきました。「すぐ」と言うので、私たちは後30分くらいで閉まってしまうのかなと思ったのですが、約2時間後に閉まるとのこと。ここでも日本とスウェーデンの時間感覚の違いを感じました。ちなみにホットチョコレートを頼んだら「ないよ」と言われたのが面白かったです。結局店長らしき人に電話してホットチョコレートの所在を明らかにし、出してくれました。その辺の緩さもとても好印象でした。



○2月20日（火）

午前中は高校に見学に行きました（Globala Gymnasiet）。まず、この高校が教育上のメインテーマにしているのが「research for sustainability」であることに驚きました。いかに持

持続可能な社会を作るか、そのためにいかに社会を変えられるかという問題意識の元で、グローバルにこの課題を担っていける人材を輩出することを目標としているとのことでした。日本では考えられないことだなと思いました。学生たちは文系と理系に分かれ、持続可能性に関する研究を各自で進めることになっています。大体5人くらいの少人数クラスがゼミのような形で設けられており、生徒たちは市内公共交通機関のCO2排出量を調査したり、プラスチックをいかに再生可能な形へと変えていけるかを研究したり、他には細菌について研究したりしていました。



○2月21日（水）

いよいよ研究報告会でした。とにかく緊張しましたし、英語での発表自体初めてのことで、非常に良い経験となりました。私は原稿をもとにしないとその場では話せないのですが、これからは原稿を見なくても臨機応変に英語が話せるようにならなければと思わされる良い機会になりました。研究内容については、私は職業教育訓練がテーマだったので、あまり他の学生にとっては馴染みがないテーマだったようで、もっと分かりやすく意義や分析結果についてまとめられれば良かったなと反省しました。ほかの学生の発表はとても面白かったです。他の方が報告した緑茶の研究について、とても盛り上がりました。

また、報告会の最後に、東大生代表で自分が参加したセッションの報告内容を全体で発表したのですが、これが死ぬほど緊張しました。単に発表内容を簡単にまとめて話すだけのものですし、発表を聞きながら原稿も作ったので読み上げただけなのですが、とても良い経験になりました。とにかく堂々と話すことだけを念頭に置きました。

○2月22日（水）

UNESCOに見学に行きました。ここでも持続可能性が非常に重要視されていました。何より職員の方々がパワフルでした。自分のやりたいことを追求して、諦めずに行動する姿を見て、自分の人生について色々と考えさせられました。幼保教育や職業教育について、他の団体との協同を工夫して行っていることなど興味深いお話を聞きました。インターン募集中ということだったので、自分が学部生だったからぜひ参加したかったなと思いました。

○2月23日（木）

OECD本部に見学に行きました。一人一人の興味関心を報告することになったのは少し驚きましたが、とても面白いお話が聞けてよかったです。